

海外生活 エッセー

シンガポール事務所

スーパーから見るシンガポールの多様性

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 中村 啓人 (秋田県派遣)

→ 多民族・多宗教国家のシンガポール

多民族・多宗教国家であるシンガポールは、その国民の約75%が中華系、15%がマレー系、7.5%がインド系民族で構成されており、約30%が仏教、20%弱がキリスト教、15%がイスラム教、5%がヒンドゥー教を信仰していると言われています。

国内には、中華系の多く住むチャイナタウンや、マレー系の多い東部エリア、インド系の多いリトルインディアといったコミュニティがあり、その街並みや食文化、生活習慣の一端を見るだけで、この国の多様性の深さを肌で感じることができます。

これは小売りに関しても言え、全国民が日頃利用するスーパーマーケットチェーンの品揃えは日本のそれと大きく変わらない一方、マレー系やインド系を主なターゲットとするスーパーは、宗教や食習慣の違いが反映されて、私たちの知るスーパーとはやや趣が異なります。

今回は、インド系スーパーの生鮮食品コーナーからシンガポールの多様性を眺めてみます。

→ インド系スーパーから見る多様性

インド系スーパーに行くと、まず目にとまるのは膨大な種類の南国フルーツや野菜、スパイスの数々。日本はもちろん、シンガポールでも珍しい品種のマンゴーやウリ類、マメ類などが山積みで量り売りされているほか、ガラムマサラがキロ売りされていたりします。

また、ドライフルーツも豊富で、パパイヤ、ドラゴンフルーツといった南国フルーツ、西アジア産のデーツやイチジクなどが、売り棚を占拠しています。これらは生食やお菓子の素材とするだけでなく、カレーを始めとす

る煮込み料理の隠し味として用いるなど、インド系の食生活にはなくてはならない食材です。

精肉コーナーに行くと、最も売り棚を占めていたのがヒツジ肉で次が鶏肉。ヤギ肉、シカ肉といった日本では馴染みのない肉も多く扱われています。そして、牛肉や豚肉は、少し離れたカウンターでこぢんまりと販売されています。

一般的に、イスラム教信者は豚肉を、ヒンドゥー教信者は牛肉を食べません。そのため、世界最大のイスラム教国であるインドネシアや、約8割の国民がヒンドゥー教を信仰するインドでは、鶏肉、ヒツジ肉と並んでヤギ肉が非常にメジャーな食材です。また、インド系スーパーに限らず、牛肉や豚肉コーナーは、鶏肉売り場とは別の場所に設置される場合がよくあります。信者の中には、鶏肉の近くに牛肉や豚肉が売られることを嫌がる人もいるからです。

どの売場にもイスラム教信者向けにハラール表示がされているのも多民族・多宗教国家ならではのところだと思います。



インド系スーパーの精肉コーナー。ヒツジ肉と共にヤギ肉、シカ肉が販売されている